

GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1. 早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	グリーンスチール
b.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	グリーンケミカル

2. 具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	グリーンスチール
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社が手掛けるHuman Machine Interface(制御パネル)において、鋼材の選定基準に環境価値を新たに設定し、グリーンスチールの積極的な購入を行うことで環境負荷低減を図ります。 サプライチェーン全体での環境負荷削減に向け、サプライヤーへの技術革新を促進し、安定的かつ持続可能なグリーンスチール使用製品の供給体制の構築を支援します。

b.	グリーンケミカル
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社が手掛けるHuman Machine Interface(制御パネル)において、プラスチック材料の選定基準に環境価値を新たに設定し、グリーンプラスチックの積極的な購入を行うことで環境負荷低減を図ります。 サプライチェーン全体での環境負荷削減に向け、サプライヤーへの技術革新を促進し、安定的かつ持続可能なグリーンプラスチック使用製品の供給体制の構築を支援します。

3. サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4.温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	グリーンスチール
削減対象	Scope 3（カテゴリ1）
目標年度	2030年度
基準年度	2022年度
目標削減率	25%
削減目標における選択対象の位置づけ	グリーンスチールを標準鋼材として一定量採用することは、カテゴリ1の排出削減を実現し、Scope 3（カテゴリ1）における排出削減率25%（2030年度目標）に直接的に寄与します。

b.	グリーンケミカル
削減対象	Scope 3（カテゴリ1）
目標年度	2030年度
基準年度	2022年度
目標削減率	25%
削減目標における選択対象の位置づけ	グリーンプラスチックを標準材料として一定量採用することは、カテゴリ1の排出削減を実現し、Scope 3（カテゴリ1）における排出削減率25%（2030年度目標）に直接的に寄与します。

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	グリーンスチール
目標年度	2030年度
定量的目標	50%（同一材料重量比率）
選択対象に関する定量的目標の概要	2030年度までに、自社の製品群におけるHMI製品において使用するスチールの50%以上をグリーンスチールとすることを目標に、主要なサプライヤーと連携してサプライチェーン全体の環境負荷軽減とカーボンニュートラルへの貢献を強化していきます。

b.	グリーンケミカル
目標年度	2030年度
定量的目標	50%（同一材料重量比率）
選択対象に関する定量的目標の概要	2030年度までに、自社の製品群におけるHMI製品において使用するプラスチック材料の50%以上をグリーンプラスチックとすることを目標に、主要なサプライヤーと連携してサプライチェーン全体の環境負荷軽減とカーボンニュートラルへの貢献を強化していきます。

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	自社単体
------	------

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

2025年5月18日

シュナイダーエレクトリックホールディングス株式会社
CS&Q本部長 蛭田貴子